

歯ツピースマイルクラブ

特集

糖尿病患者さんの 診療でのポイント

好評連載中

おしごと拝見!!
糖尿病患者さんに
歯科衛生士が出来ること

糖尿病予防指導認定歯科衛生士
サンスター歯科診療所 歯科衛生士

福池久恵さん 野田めぐみさん 茨木浩子さん

まんが

満足度を高める
接客のヒント

糖尿病をはじめとする
全身疾患を見据えた指導



糖尿病患者さんの診療でのポイント

前号 (vol.28) では、糖尿病とはどんな病気か、歯周病との関係について特集しました。本号では、糖尿病に罹患している患者さんが実際に来院した際に確認すべきポイントを、診療前・診療中・診療後に分けてご紹介します。より実践的な知識を身につけ、初診から長期に及ぶメンテナンスまで、適切に対応できるようにしましょう。



☑ 確認するポイント

Point 1 診療前

☐ HbA1c 値

ヘモグロビンと糖の結合率を示す HbA1c 値は、診療方針を検討するうえでチェックしておきたいポイント。侵襲性の低い歯周外科処置を選択すべきとされる参考値は、HbA1c 6.9 です。^{※1}

☐ 血糖値

患者さんが糖尿病に罹患しているとわかったら、まずはできるだけ具体的な血糖値を確認しましょう。糖尿病の患者さんは易感染性のため、血糖コントロール不良の場合、感染予防のため施術前に抗菌剤投与を検討する必要があります。^{※2}

☐ 食事の摂取の有無

食事を摂取していない、もしくは量が十分でない場合、低血糖発作を引き起こしやすくなります。診療中、体調に異変が起きる可能性もあるので、しっかり確認しておきましょう。

わが国で一般的に用いられている血糖コントロール基準^{※3}

指標	HbA1c 値 (%)	空腹時血糖値 (mg/dL)	食後2時間血糖値 (mg/dL)
優	5.8未満	80~110未満	80~140未満
良	5.8~6.5未満	110~130未満	140~180未満
可	不十分	130~160未満	180~220未満
	不良		
不可	8.0以上	160以上	220以上

☐ 血圧値

平常時の血圧値、薬によるコントロールの有無などを確認しておきましょう。

☐ 罹患している全身疾患

糖尿病の患者さんの中でも、人工透析をしている方（糖尿病性腎症など）は歯周病の進行がさらに早くなる傾向にあり、徹底的なプラークコントロールと細かいメンテナンスが必要です。^{※3} 糖尿病に付随する病気はもちろん、全身疾患の有無は必ず確認しましょう。

糖尿病連携手帳を提示してもらえると、必要な情報が記載されてます！



出典 ※1 日本歯周病学会 糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン改訂第2版 2014
 ※2 伊介昭弘, 糖尿病患者に対する歯科医療の留意点, 有病者歯科医療, 10巻2号, 2001
 ※3 鳥根県・糖尿病医科歯科連携歯科医院向け小冊子「糖尿病患者さんが受診されたら」

©日本糖尿病協会

Point 2 診療中

☐ 低血糖発作への準備

血糖値がおおよそ70mg/dL以下になると、発汗や手指の震え、顔面蒼白など、交感神経が刺激されることによる症状、低血糖発作が発現します。発作が起きた場合は、速やかにブドウ糖を中心とした糖質補給（ブドウ糖5~10g相当量が目安）が必要です。異変が見られたらすぐに対応できるよう、準備しておきましょう。^{※4}

☐ 抗菌剤の投薬など感染予防に努める

観血的処置を行う場合は、抗菌剤の予防投与が必要です。^{※2}

菌血症への対策はすべき？

糖尿病の患者さんが、健常者と比べて口腔内細菌由来の菌血症を発症する頻度、程度が増すという報告はありません。それよりも、歯周組織における炎症を軽減することのメリットのほうが大きいと考えられるため、菌血症を懸念して処置を制限する必要ないとされています。ただし、菌血症のリスクを最小限に押さえるために、血糖コントロールを良好に保つことは大切です。^{※1}

Point 3 診療後

☐ 診療後、通常通り食事できる場合

インスリンや服薬中の薬剤を、これまで通りのスケジュールで服用してもらいましょう。^{※2}

☐ 診療後、通常通りの摂食が困難な場合

シックデイを誘発する恐れがあるので、十分な指導管理を行わなければなりません。薬の調整が必要な場合もあるので、主治医に相談しましょう。^{※3}

シックデイ^{※5}

『シックデイ』とは、糖尿病の患者さんが感染症などによる発熱や下痢、嘔吐、食欲不振などのために十分な食事が摂れず、血糖値が不安定になりやすい状態のことをいいます。血糖コントロールの状態が良好で、普段はインスリン製剤を使用する必要のない方でも、著しい高血糖になって重い症状が出る可能性があります。歯科診療後、満足に咀嚼ができなかったり痛みを訴えたりする場合も、シックデイが発生する恐れがあるので、注意が必要です。

糖尿病患者さんは口腔内が乾燥傾向にあります。保湿剤や保湿成分配合の歯磨剤の使用を提案してみるのもいいですね！



※4 日本糖尿病学会 糖尿病診療ガイドライン2016
 ※5 国立国際医療研究センター 糖尿病情報センターwebサイト <http://dmic.ncgm.go.jp/>

おしごと拝見!!

糖尿病患者さんに歯科衛生士 が出来ること

もし患者さんが糖尿病に罹患していたら、どのように向き合っていくのが良いでしょうか。普段から糖尿病の患者さんの診療に携わっているサンスター歯科診療所(大阪府豊中市)の3名に、診療での取り組みや、歯科保健指導で気をつけていることを教えていただきました。

▶日頃から糖尿病に罹患した患者さんを診療する大阪糖尿病療養指導士(CDEL)のみなさん。



患者さんから申告がない場合も 口腔内環境から全身疾患を疑う

— 来院する患者さんのうち、糖尿病を患う方の割合はどれくらいですか？ また、糖尿病罹患の有無はどのように確認しているか教えてください。

福池 全体の患者数は1日あたり100～120人、1ヵ月で2,400人ほどになります。このうち、糖尿病に罹患した患者さんは全体の5.8% (1ヵ月で約140人)で、全国の平均値より高めです。

ただし、これには“糖尿病を申告していない患者さん”は含まれません。糖尿病罹患の有無は、基本的に問診で既往歴を確認していますが、すべての患者さんが申告してくれるわけではありませんからね。そのため、お薬手帳に記載された服薬状況から判断することもあります。

また、歯周病治療を進めてもなかなか

か効果が出ない場合、原因を検証するために血液検査結果の提出をお願いしています。その結果を見て、糖尿病と分かることもありますね。

野田 全身疾患に関しては、年に1回は再問診を行っています。その際、「糖尿病と歯周病には関係があって、放っておくと大変なことになるんですよ」と説明するんです。すると、患者さんは慌てて糖尿病に罹患していることを話してくれます。やはり、全身疾患と口腔は関係ないと思っている方が多いようですね。

— 患者さんから申告はなかったものの、口腔を診ることで糖尿病に気がついた経験はありますか？

福池 あります。プラークや歯石の大部分が除去されていて、咬合にも異常

がないのに、歯肉の赤みが引かなかったり常に口腔が乾いていたりする時は全身疾患との関連を疑います。糖尿病はその代表的な例。こちらから糖尿病ではないかと尋ねて、「どうして分かったのか」と驚かれることも少なくありません。

— 糖尿病の患者さんのセルフケアへの姿勢に傾向は見られますか？

野田 糖尿病と歯周病の関係を知って、頑張って治そうという姿勢の方もいますし、逆に「どうせ自分の糖尿病は良くならない……」などと諦めてしまう方も見られますね。後者の場合、通院してくれるもののプロフェッショナルケアに頼りきりで、セルフケアに問題があることが多いです。中には適切な頻度で通院してくれず、重度の歯周病になる方も。そういう場合は、歯科保健指導でしっかりモチベーションをコントロールしてあげることが重要になります。

傾聴の姿勢を忘れず、否定しない 患者さんと一緒に戦う姿勢が大切

— 糖尿病の患者さんへの保健指導で実際に取り組んでいることを教えてください。

野田 患者さんに、ご自身の体の状態を正しく理解してもらうように努めています。患者さんの中には、口腔のことだけではなく、糖尿病の病態も把握していない方が多くいるんです。そのため、来院のたびにHbA1c値を確認します。この時、数値が悪くなっても非難してはダメ。治療へのモチベーションを保つには、否定しないことが大切です。ご自宅でのケアがままならない場合、歯科医院でのケアは命綱ですから、「一緒に改善していきましょう」と患者さんを鼓舞します。

福池 野田さんの言うように、HbA1c値を把握して、患者さんと共に一喜一憂するのは大切ですね。「あれもこれも食べちゃダメ」と言われる糖尿病治療は、共感してくれる人がいないとなかなか続かないもの。患者さんに“一緒に戦っている”という意識を持ってもらうことが、継続のカギとなります。

茨木 内科受診のタイミングに合わせて、次回の予約を取ってもらうよう案内しています。内科での診療状況や患者さんの体の状態について多くの情報を得るため、また歯科にも欠かさず通院してもらうため、内科と歯科をセットで考えてもらうようにしているんです。

あとは、患者さんと対等な立場でコミュニケーションをとることで、気持ち良く通える雰囲気をつくることも大切です。そうすると、患者さんの定期的な通院を促すだけでなく、私たち歯科衛生士も得られることが多いんですよ。過去には、血糖コントロールに効果を感じられた食事など、有益な情報を教えていただいたこともありました。

— 福池さんは『糖尿病カンパセーション・マップ』を使った説明も実践されているそうですね。

福池 はい。カンパセーション・マップは糖尿病学習ツールで、日本糖尿病協会が実施する講習を受け、ファシリテーター資格を取得した人のみが扱えます。ゲーム感覚で糖尿病に関する知識を学ぶもので、患者さんが主体的に参加するため、一方的に説明するよりも効果的に理解を深められるんです。また、複数の患者さんが集まって行うので、「闘病しているのは自分だけではない」と実感できるのも魅力ですね。



▲『糖尿病カンパセーション・マップ』を使った指導風景。ゲーム感覚で楽しみながら学べる。

— 実際に担当された糖尿病の患者さんの中で、印象に残っている症例はありますか？

福池 私は、糖尿病I型の患者さんです。20代後半から来院され、40代になった今も継続して通院されています。I型の場合、仕事で疲れるなどして体力が低下すると血糖値がぐっと上昇し、入院になってしまうことも珍しくありません。しかも、II型と違って生活習慣の改善などで良くなる可能性があるものではないため、自暴自棄になりがちです。若くして持病を抱える気持ちに少しでも寄り添うために、とにかく話を聞くことに専念。その上で、患者さんの意向に沿うケアをするようにしています。

野田 若くして糖尿病II型を患う患者さんです。歯周病は重度ではありませんが、抜歯の必要なリエスが多発した状態で来院されました。治してあげたいところですが、HbA1c値がなかなか下がらないので、治療を進められないんです。今、なんとかして改善しようと奮闘しています。いずれは快適に食事できるようにしてあげたいですね。

茨木 私の場合は、自然出血が止まらない患者さんです。何度か治療して、症状が落ち着いたところで健康診断を受けると、なんとHbA1c値が10もありました。後で話を聞くと、健康診断を受けたきっかけは「歯の状態が良かったことで全身に意識を向けるようになったから」と言ってくれて。改めて、歯科衛生士が広い視野で診療することが必要だと感じましたね。

日本歯科衛生士会糖尿病予防指導認定歯科衛生士
大阪糖尿病療養指導士(CDEL)
サンスター歯科診療所 歯科衛生士長
福池久恵さん

糖尿病患者の歯科診療に率先して取り組んできたバイオフィリア的存在。



日本歯科衛生士会糖尿病予防指導認定歯科衛生士
大阪糖尿病療養指導士(CDEL)
サンスター歯科診療所 歯科衛生士
野田めぐみさん

第2種滅菌技士資格も持ち、知識が豊富。後輩の指導にも注力。



大阪糖尿病療養指導士(CDEL)
サンスター歯科診療所 歯科衛生士
茨木浩子さん

常に診療所全体のことを考え、みんなから頼られるまとめ役。

HbA1c値は必ず確認 広い視野で原因を考えて

— 読者の歯科衛生士が糖尿病の患者さんを診療することになった時、まずは実践してほしいことはなんですか？

福池 糖尿病の患者さんが来たら、まずはHbA1c値を確認しましょう。血糖値を確認してしまいがちですが、血糖値は直前の食事制限などで上下するため、HbA1c値を聞くようにしてください。

茨木 糖尿病が歯周病の原因になるという事実をちゃんと認識することも大切です。治療しても口腔の状態が改善しないのは、必ず原因があります。その原因の“引き出し”のひとつに糖尿病を用意しておけば、特定しやす

くなりますから。

野田 本を読んで、浅くても良いので知識を広げる努力をしてほしいですね。そして、インプットした知識を実践に移しつつ、併せてHbA1c値の推移を記録に残しましょう。これを繰り返すことで情報が蓄積していき、糖尿病について理解がさらに深まった時に必ず生きてくるはずですよ。

— 診療所全体、それからご自身の今後の展望について教えてください。

福池 個人的には、歯科衛生士のみなさんに糖尿病の知識を積極的に広めていきたいと考えています。日本歯科衛生士会糖尿病予防指導コース第1期生として取り組みについて講義を行いました。これからも、“臨床に立つからこ

親子3世代で通える診療所 糖尿病にはいち早く着目

— 患者さんの年代に傾向はありますか？

茨木 特定の年代に集中することはない、乳幼児から高齢者まで幅広く来院します。そのため、家族3世代で通っていただくことを想定した環境整備になっています。キッズスペースや、親子やご兄弟で同時に診療を受けられるファミリー診療室の用意や、完全バリアフリー設計にするなど、工夫をしています。

— 診療スタイルに特徴はありますか？

野田 治療とケアとを分けていることは特徴のひとつです。歯科医師が治療を行うキュア (Cure) ルームと、歯科衛



生士がケアを行うケア (Care) ルームとがあり、歯科衛生士がスキルを存分に発揮できる環境が整っています。

— 糖尿病の患者さんの数が全国平均より多いのはなぜですか？

福池 当診療所には糖尿病予防指導認定歯科衛生士 (2名)、地域糖尿病療養指導士 (5名) が在籍しています。特に地域糖尿病療養指導士は、大阪府で歯科衛生士の合格者が58名 (2018年時点) しかないところ、うち5名が当診療所の歯科衛生士です。全身疾患と口腔の関わりについていち早く着目してスタッフが理解を深め、力を入れて治療に取り組んできた結果ではないかと思っています。



◀ 親子やご兄弟と一緒に診療を受けられる部屋。家族の様子が見えるから安心。



▲ 患者さんに糖尿病と歯周病の関わりについて理解を深めてもらうため、セミナーを開催。

そわかる現場で必要な情報”を提供する活動に力を入れていきたいです。

診療所としては、歯科衛生士全員が糖尿病の知識を身につけられるように、資格取得者で協力しながら後輩の指導に努めようと思っています。



▲ 大阪糖尿病療養指導士の資格を5名の歯科衛生士が取得。うち2名は、日本歯科衛生士会糖尿病予防指導認定歯科衛生士の資格も取得。

日本歯科衛生士会糖尿病予防指導認定 歯科衛生士

日本歯科衛生士会が2016年度に新設した資格。糖尿病予防に必要な保健指導と管理に関する専門的な知識・技能を習得し、それを活かして地域社会に貢献できると認められた歯科衛生士に与えられる。

日本糖尿病協会地域糖尿病療養指導士

糖尿病治療に欠かせない自己管理 (療養) について、患者さんに的確に指導できるだけの知識を備えた医療スタッフに与えられる資格。糖尿病療養指導士には、日本糖尿病療養指導士認定機構が認定するもの (日本糖尿病療養指導士) と、各地域で設立・運営されている機構が認定するもの (地域糖尿病療養指導士) の2種類があり、各都道府県により歯科衛生士の取得の可否は異なる。



取材医院

サンスター歯科診療所 (大阪・豊中市)

医学の進歩と健康管理の分野で社会貢献を目指すサンスター財団が開所。歯とお口から全身の健康を考え、3世代に愛される診療所として運営している。

EVENT REPORT

デンタルショー出展レポート

今年も全国各地のデンタルショーへ出展し、商品情報をお届けしてます！



2/16 (土)・17 (日)
中部デンタルショー
(愛知県・吹上ホール)

新商品のメディカルペーストC®を紹介しました。
※ P10,11に掲載



4/13 (土)・14 (日)
近畿デンタルショー
(大阪府・インテックス大阪)

ポタニカルイメージで温かみのあるブース。
多くの方にお越しいただきました。



5/25 (土)・26 (日)
九州デンタルショー
(福岡県・マリニメッセ福岡)

ブース内にて、オーラルフレイル情報や
口腔ケア製品についてお伝えしました。

— その他出展イベント —

8/17 (土)・18 (日)

北海道デンタルショー (北海道・札幌パークホテル)

9/7 (土)・8 (日)

東北デンタルショー (宮城県・仙台国際センター展示棟)

予告

11/9 (土)・10 (日)

東京デンタルショーに出展します！

[会場] 東京ビッグサイト 西1・2ホール

ご来場お待ちしております！

事前登録いただいた皆様に
予防商品サンプルセットを
お渡ししました！



糖尿病をはじめとする 全身疾患を見据えた指導

糖尿病の総患者数は、今や328万9,000人^(※)。みなさんが糖尿病やその予備群の方を診療する機会はずっとあるでしょう。糖尿病を疑うポイントは？ どう説明する？ 現場で実践できる対応のコツをご紹介します。

※糖尿病の可能性を否定できない人 (HbA1c 6.5以上)



教えてくれたのは

カリスマDH
沢口由美子さん

1959年東京都生まれ。1998年に長男を出産し、子育てをしながらフリーランスの歯科衛生士として活躍。「亡くなる前日まで、臨床で仕事をしたい」というほど、DHの仕事に誇りと愛情を抱いている。DHのレベルアップのためのセミナーも多数行う。共著に『継続通院したくなる歯科医院のスタッフ育成計画』（わかば出版）など。

1 こんにちは、予約していた佐藤です。

こんにちは！問診票の記入をお願いします。

2 どうされましたか？

歯みがきをするといつも出血するんだ。

では、お口の状態をチェックしていきましょう。

3 歯肉の状態を检查一下ね。

はい。

4 プローブを入れると出血するな……

唾液もネバつく感じ…

どうしたの？

5 歯肉から出血があるのね。口も乾いているように見えるし…。

年齢は43歳……

もしかすると、糖尿病を患っているかもしれないわ。

6 糖尿病なんて、大変。佐藤さんに教えてあげなきゃ！

ちょっと待って！

いきなり“あなたは糖尿病かもしれない”なんて言われたら、患者さんは怖くなってしまわう。

こういうときは、伝え方が大切。お手本を見せるわね。

7 歯肉が炎症を起こしていて歯周病の疑いがあります。出血する日が続いているみたいですね。

そうなんだよ……。

一応フロスも使っているけど……

8 意外かもしれませんが、歯周病はさまざまな全身疾患と関連しています。

特に糖尿病とは深く関係していて、糖尿病が歯周病を悪化させることもあるんですよ。

糖尿病の初期段階では自覚症状がないことがほとんどなので、全身の健康状態も把握しておくといいですよ。

9 知らなかったよ！それなら血糖値も確認したほうがいいんだね。



DHが管理するのは口腔だけでなく全身

歯周病は、さまざまな全身疾患と深く関係しています。糖尿病だけでなく、動脈硬化や心筋梗塞、脳梗塞、妊婦の場合は胎児に悪影響が出ることも。口腔を介して全身の健康を管理していることを意識し、患者さんの治療に対するモチベーションを高める保健指導に努めましょう。



患者さんの一人ひとりに最適なケアを提案して

患者さんの生活スタイルや現在のセルフケアなどを丁寧にヒアリングし、その方に適したアドバイスをするのが大切。継続できる提案をするのがポイントです。

9 お口を清潔に保つことは、全身の健康を守ることにつながります。

10 セルフケアの質を高めるには、アイテムの見直しも大切です！

ハブラシやフロスだけではなく、歯間ブラシも使ってみてください。

11 歯間ブラシ？フロスじゃダメなの？

歯間ブラシなら、歯と歯の間にある奥歯の“くぼみ”の面もきれいにみがけますよ。

12 薬用成分の入ったデンタルリンスも歯周病予防にお勧めです。お口が乾きやすい方はノンアルコールタイプがいいですね。

低刺激
ノンアルコール

アルコール入り

13 それから、舌にも汚れが溜まります。舌ブラシを使うのがお勧めですが、ハブラシで優しく汚れを落とすも構いません。

14 セルフケアは継続が大切です。まずはひとつでもいいので、できそうなものをから毎日のケアに取り入れてみてくださいね。

わかりました。まずは歯間ブラシを買ってみよう。丁寧に教えてくれて、ありがとう。

15 佐藤さん、笑顔で帰ってくれたね。

うれしいですね！先輩、ありがとうございました。

保健指導のポイント

- Point 1** 現代の日本では、40代男性の2人に1人、女性の3人に1人が糖尿病、もしくは糖尿病予備軍といわれています。中年の患者さんで、歯みがきや歯周病検査で出血が見られる場合は、糖尿病の可能性を考慮するようにしましょう。
- Point 2** 歯間ブラシや舌ブラシ、デンタルリンスなど、さまざまなセルフケアアイテムを紹介してあげるのも大切なポイント。できることから始めるように促してあげましょう。
- Point 3** お口の健康を維持することの重要性をきちんと説明し、セルフケアや定期的なメンテナンスの意味を理解してもらうようにしましょう。

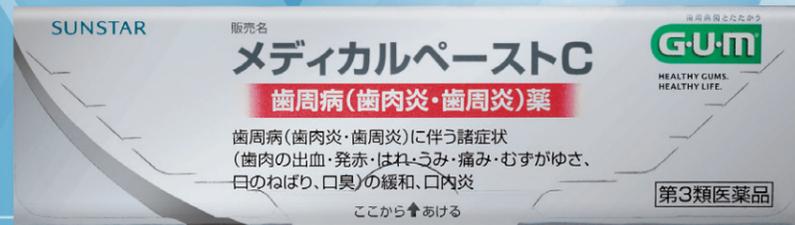
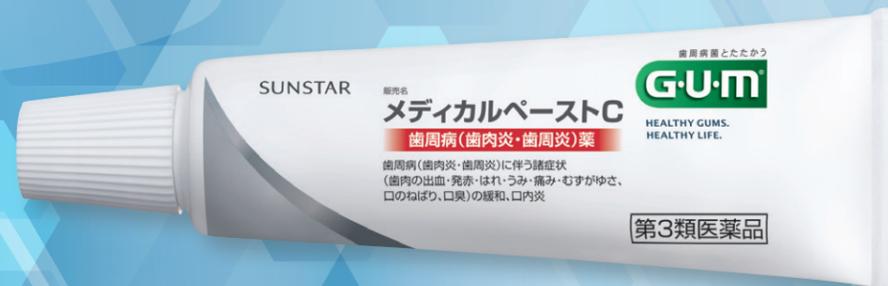
新商品



第3類医薬品

歯周病(歯肉炎・歯周炎)薬

メディカルペーストC



歯周病^{*}の治療及び予後管理において重要な
自宅でのセルフケアのための歯周病^{*}薬です。

※歯周病：歯肉炎・歯周炎の総称です

歯周病の治療・予後管理に



専門家の定期的な管理



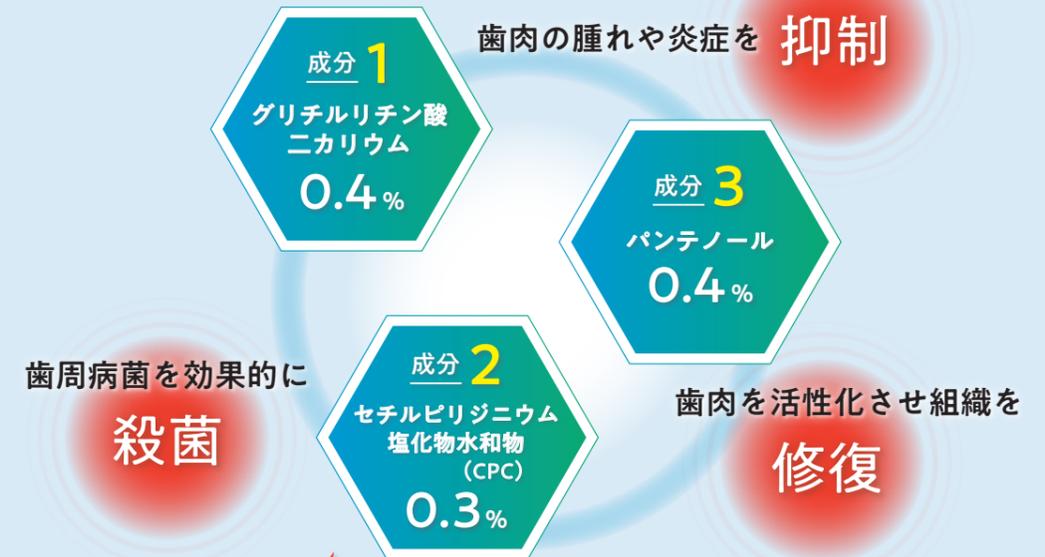
自宅で行うセルフケア



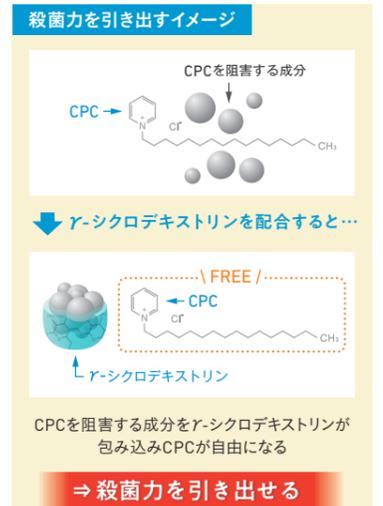
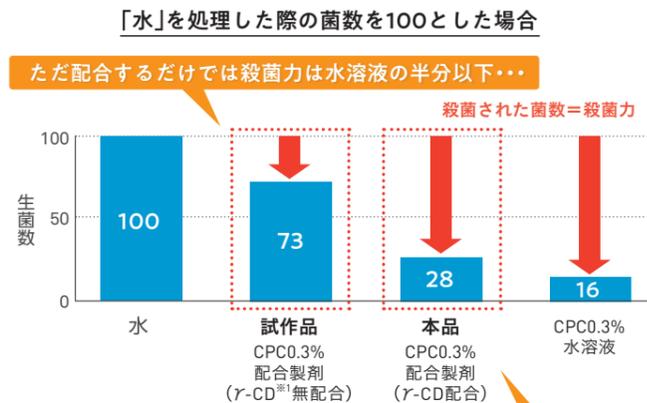
このような患者さんに

- 歯周病の初期治療中で、出血・発赤・腫れ・痛みがある
- 歯周病安定期治療(SPT)中で、プロービング時などに出血が認められる
- 口内炎がある

3種類の有効成分を配合。歯周病の諸症状を緩和します。



CPCの殺菌力を引き出す処方設計で効果的に殺菌！



使用方法

歯周病には1日2回(朝・晩)、歯みがき後にご使用ください。塗った後、食事をするときは、30分ほどおくことをおすすめします。洗い流す必要はありません。

指で

適量(約0.3g)を指にとり、歯肉をマッサージするように塗り込んでください。



ハブラシで

指が届きにくい部位は、ハブラシにつけてみがいてください。



1回量を数回に分けて塗布する方法もおすすめです。

お便り紹介

たくさんのお便りをいただき、ありがとうございます。
今後も皆様にご愛読いただける誌面づくりを目指すため、
皆様からのお便りをお待ちしています。



現在私が従事している予防教室での保健指導に役立つ内容でした。日々の診療所での保健指導、ブラッシング指導においても参考になりました。歯科から発信する全身疾患への影響をどこまで患者さんに伝えられるか、日々勉強の毎日です。(兵庫県：関さん)



口腔と全身疾患との関係性は近年さらに注目されています。編集部でも、新しい情報を分かりやすく発信していきます。



糖尿病患者さんのコントロールはとて難しく、カリスマDHのお話はとても参考になりました。日常の診療の忙しさの中で、流れてしまいがちな色々なことを改めて考える良い機会になりました。次号からはスタッフ全員で読みたいと思います。(奈良県：悩めるDHさん)



日々の臨床業務を振り返る一つのきっかけとしても、今後ご愛読いただくと幸いです。編集部も初心を忘れず、様々な情報を提供していきます。



身近な疑問や、今更質問しにくい内容を取り上げていただき、院内でも「ああ、そうなんだ!」とスタッフと話し合うコミュニケーションの時間に役立っております。(千葉県：エル父さん)



皆様とのコミュニケーションにご活用されているとのこと、大変嬉しく思います。明日からの臨床に役立つ情報をお伝えしていきます。



お便りを掲載させていただいた方には

サンスター予防商品をプレゼント!

歯ッピースマイルクラブでは、皆様からのお便りをお待ちしています。日々のお仕事や診療室での出来事、記事の内容についてなど、あなたのご意見・ご感想をお聞かせください。

※商品は予告せず変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。



FAX
でのご応募

FAX 072-684-5669

24時間受付 ※専用のFAX用紙をご利用いただくと便利です。

購読
無料

便利な読者登録
しませんか?

郵送
でのご応募

〒569-1195
大阪府高槻市朝日町3番1号
サンスター株式会社 歯科営業部
「歯ッピースマイルクラブ」係

読者登録用紙にて「歯ッピースマイルクラブ」の読者登録が可能です。ご登録いただいた方には、最新号を定期的にお届けします。なお、一度ご登録いただいた方は再度ご登録をしていただく必要はございませんので、ご安心ください。

サンスター歯科用商品は、歯科流通業者様よりご購入いただけます。
今後ともご愛顧賜りますようよろしくお願い申し上げます。